

## 廃棄物対策審議会議事録

会議名	廃棄物対策審議会
日時	平成23年1月31日(月) 午後3時00分～午後5時00分
場所	クリーンセンター 2F 研修室
出席	恵会長、恵良副会長、稲葉委員、大谷委員、高橋委員、新美委員、能村委員、紅谷委員、大橋委員、鈴木委員、近藤委員、中西委員、
欠席	篠山委員、矢野委員
事務局	江口環境部長、岡田環境部次長、宮崎リサイクル推進課長、柳沢同課長補佐、吉岡同課長補佐、片浦同課リサイクル係長、鈴木同課エコセンター係長、渡邊同課主査、松岡同課主事、秋元臨時職員
傍聴人	無
議題	(1) 流山市クリーンセンター環境保全対策協議会委員の推薦について (2) 流山市一般廃棄物処理基本計画の進捗状況について (3) その他について
資料	・資料1 清掃のあらまし2010(冊子) ・資料2 森のまちエコセンター稼働状況 ・資料3 森のまちエコセンターパンフレット
議事要旨	別紙のとおり

## 議事要旨

<ul style="list-style-type: none"> <li>・開会</li> <li>・あいさつ</li> <li>・議題</li> </ul> <p>(1) 流山市クリーンセンター環境保全対策協議会委員の推薦について</p>	
惠会長	<p>議題(1)は「流山市クリーンセンター環境保全対策協議会委員の推薦について」である。</p> <p>平成23年1月21日付で能村委員の環境保全対策協議会委員の任期が満了したので、後任を推挙願いたい。</p>
紅谷委員	鈴木委員を推薦したい。
全委員	※賛成の声。
惠会長	<p>それでは、鈴木委員にお願いしたい。異議はないか。</p> <p>※拍手、異議なしとの声あり。</p>
<p>(2) 流山市一般廃棄物処理基本計画の進捗状況について</p>	
惠会長	<p>議題(2)は「流山市一般廃棄物処理基本計画の進捗状況について」である。</p> <p>事務局から説明いただきたい。</p>
宮崎課長	資料1「清掃のあらまし」について説明。
惠会長	<p>平成21年度のごみ行政の様子のとめである。</p> <p>計画の経過報告であるが、平成26年度の計画数量に向かって着々と減量に向かっている。</p> <p>事務局の説明を含め、質問や意見をお願いしたい。</p>
能村委員	30頁の最終処分量だが平成21年度の実績から今後の見通しはいつているのか。
岡田次長	本市は最終処分場を持っておらず他市に依存している状況である。平成21年度の増加原因については調べて後日返答させていただきたい。
惠会長	能村委員の質問の背景には何かあるのか。
能村委員	23頁の最終処分量の中で焼却灰、炉下不燃残渣が増えている。以前、焼却灰が売っていたということで最終処分量が出なかったとの話を聞いていたが、今は売れなくなった焼却灰をどのようにしているか。
宮崎課長	昔はエコセメントとして出していたが、処理単価が高く最終処分したほうが安価である為、経費削減でやむを得ず、エコセメントに出す分を最終処分したということである。
岡田次長	<p>焼却灰が増えた理由は平成21年度の焼却量が前年度より増加した結果、排出する焼却灰も増えたということである。</p> <p>この詳細は後ほど報告したい。</p>
惠会長	人口の増加で焼却量が増え、焼却灰が増えているということである。
高橋委員	<p>ごみの減量に関しては、市民、行政と力を入れていると思うが最終処分量については行政が真剣に追究していかないといけない。</p> <p>自分の地域の中で処分することが基本的な考え方である。</p> <p>新しい技術を取り入れて少しでも最終処分量の絶対値を減らしていく</p>

	という事を市の環境部として力強くお願いしたい。
稲葉委員	23頁の最終処分量中何が減ったり増えたりしているのか。 家庭ごみの燃やさないごみ、粗大ごみがたいして減っていない。 また、今後増える傾向にあるのか。最終処分量には加わらないのか。
岡田次長	燃やさないごみは可能な限りリサイクル施設の中で破砕をかけて処分している。 その結果、最終的には不燃物残渣、焼却残渣として出る状態である。 ごみ減量については啓発を行っており、結果として総体で年々減少傾向である。個別の品目についてもより啓発していきたい。
稲葉委員	全体的な啓発は効いていて燃やす前のごみの量は減っているようであると言うが、燃やした後の焼却残渣が少し増えているという事は燃えきらない組成のごみが入ってしまっていることなのか。
岡田次長	詳細については25頁に可燃ごみの組成分析をおこなっている。ごみの分別の徹底が図られているか等については、この組成分析に基づいて監視を行っている。 また、今回一般廃棄物処理基本計画の中でプラスチック類の分別の見直しを計画している。
恵会長	どのような分別の仕方をすると最終的に処分しなくてはならない残渣や焼却灰が増えていくというような因果関係を説明して、うまく分別をしてくださいというアピールをしていかなければいけない。
新美委員	堆肥の販売について、堆肥は特殊肥料としての法律があり、それに従ってやるのか。表示等の問題もあるので予定はどうなのか。
柳沢補佐	堆肥の販売について名前等は登録済み。また、販売の開始から2週間以内開始の届出をすることとなっているので法律については問題ない。
新美委員	表示の問題というのではないのか。品質も表示しなくてはいけないのではないのか。
柳沢補佐	窒素、リン酸、カリウムの成分を表示して販売を進めていく。
能村委員	プラスチック類の分別の見直しについて、広報ながれやまに掲載された内容だと、その他のプラスチック製品は燃やさないごみに入れるのか。 また、何故、燃やさないごみにしたのか。
岡田次長	プラスチック類については、容器包装リサイクル法で定めているプラマークのついたプラスチック製容器包装とそうでないその他のプラスチック製品を平成15年4月から一括で収集している。 それをリサイクル施設で分別してプラスチック製容器包装を容器包装リサイクル協会に引き渡している。その手間を最初から分別して出すことによって経費の削減につながるのではという意見をふまえ、試行的な事業として1月10日から3月28日まで約3ヵ月間江戸川台西自治会に協力してもらい実験している。 試行事業の目的としてその他のプラスチックをどの区分で収集したら一番いいのかを検証する。 コンビニ弁当の容器は、プラマークのついたプラスチック製容器包装だが、中身は汚れているものもあるので、本来は燃やすごみとして回収

	<p>したい。</p> <p>バケツ、洗面器については、プラマークがついていないので、その他のプラスチック製品で燃やさないごみとして回収したい。</p> <p>そうすると、プラマークのついたプラスチック製容器包装・燃やすごみ・燃やさないごみの3分割に分けざるをえないが、市民の方にはあまりにも煩雑すぎてかえって分かりにくくなるのではという懸念がある。</p> <p>今回のモデル事業は、燃やせないごみにその他のプラスチックも加えて排出した場合、量的に問題がないかを月2回の回収で検証し、組成分析と合わせて実験的にやっている。</p>
能村委員	それを決めるにあたって、我々にも相談、意見をいう機会はあるのか。
宮崎課長	次の開催を5月頃に考えている。実験は3月末までなので検証も終わっているの、その時に報告はできる予定である。
恵会長	様々な取り組み、分別があるが、鈴木委員の提供資料ではこの様な関わりはあるか。
鈴木委員	<p>ペットボトルのキャップ回収運動を平成20年4月から行っている。</p> <p>今は、市の広報でもお知らせしているので、各自治会からの協力もあり量も増えてきている。去年1年間で3,621kg回収できた。</p> <p>ライターについては、受動喫煙等でたばこをやめた人が増えてライターが大量にごみの中に入っている。</p> <p>我々の団体もどうしたら協力できるか事務局とも相談しながら、ライターの正しい廃棄の仕方等の周知を考えていきたい。</p>
高橋委員	ボタン電池やリチウム電池などあるが、回収の取り組み方、リサイクルの資源化等はどうなっているのか。
岡田次長	本市では、ライターや乾電池等は、資源ごみと同日に回収している。月2回個別の袋に入れて排出してもらえれば回収し、他の施設で処理している。
鈴木委員	最近充電式の電池があるが、市として推奨しないのか。
宮崎課長	充電式電池については当然推奨する。広報でも載せる予定である。
恵良副会長	秋は落ち葉の処理が多いと思うが森のまちエコセンターの処理施設で落ち葉を受け入れていないのは何故か。
宮崎課長	<p>森のまちエコセンターでは落ち葉は受け入れていない。落ち葉はほうきで掃いてかき集める為、砂や砂利等ごみが入っている。</p> <p>また、堆肥は変な物が入っていると農家の方々に利用されなくなる為、純粋な物だけに限っているので落ち葉はボランティアの方々に協力してもらい腐葉土にしてもらうなどの形になる。</p>
恵良副会長	<p>けやきはとても良い堆肥ができる。ボランティアで落ち葉の回収に協力してくれた人達や家庭菜園をやっている人達にこんな堆肥があると市が間に入って紹介してほしい。</p> <p>全体には大した量にはならないと思うが、ごみのリサイクルの1つの進歩になるのではないか。</p>
宮崎課長	落ち葉を出したい人、欲しい人と言ったように、需要と供給があれば、情報をHPに載せる等前向きに考えていきたい。
高橋委員	森のエコ堆肥について、地域的なことだが、森のまちエコセンターは、

	市内北部に位置している。剪定枝を運びこむとか、堆肥を貰いに行くことは、特に市内南部（例：向小金、前ヶ崎他）の地域の住民には容易ではない。恩恵を受けるのは市民平等であるべきで、行政の公平化を図るようにご配慮いただきたい。
恵会長	<p>大変貴重な意見である。落ち葉の質をどれだけ純粹に保つか、地域によっては堆肥を取りにいけないということである。</p> <p>単独で堆肥を運ぶためだけに車を動かすと逆にCO2を増やしてしまうことにもなるので、質の管理、市内でのCO2削減、市民の方の利便等、組み合わせがうまく出来ると流山らしいモデルが出来上がるのではないかな。</p>
新美委員	前ヶ崎の方で果樹園の手伝いをしたことがある。果樹園はたくさんの枝が出るので、圧縮式のダンプのようなもので回収し、チップにして持ってくるという形ができれば良い。
能村委員	<p>硬質のプラスチックは粉砕ができれば焼却は可能なのか。</p> <p>また、どの程度の硬質のプラスチックが現在発生し、処理にはどの程度の設備が必要なのか、せつかく分別の区分を変えるわけなので色々検討してベストの区分を決めていただきたい。</p>
岡田次長	<p>硬質のプラスチックは、リサイクル館であれば破砕は可能で焼却して処分している状況である。</p> <p>今回のモデル事業の基本的な考え方としては、プラマークのプラスチック製容器包装を週1回、燃やさないごみを月2回収集し、実際に各家庭からの排出量に対応できるのかということや、回収した燃やさないごみの置き場所が充分確保できるのかということを検証するために実験している。</p> <p>色々な形で市民の方にも意見を伺いながら、今後の事を話し合っていきたい。</p>
稲葉委員	堆肥については、これからも生産量が増えていくかと思うが、その用途は家庭菜園や市の緑地等の場所なのか。農業用はほとんどないのか。
宮崎課長	堆肥を作って宣伝しているところだが、当然、農業で使っていただかないとはけ口がない。現在は、供給先を開拓しているところで農協や農業関係者に無料試供で使っていただき、良さを分かってもらっている。良さを分かったうえで買っていただくようにしている。
稲葉委員	<p>堆肥を作ったが質が悪くて貰ってもらえず焼却や埋め立てにしているという話を他でも聞く。そうではなく、作っている過程を見てもらい、良い堆肥だから使うという状況にする。また、実際に何かを作ってみるとか、大きくなるとか、そういったものがあれば良い。</p> <p>農家の方々に、堆肥の作成過程の上流に入ってもらったらどうか。</p>
宮崎課長	<p>現在も農家の方々に使ってもらっているが、森のエコ堆肥は「土壌改良」という表現であり、普通の堆肥は野菜に即効性があるのだが、森のエコ堆肥は腐葉土に近い。従って、農家の方々はそこに鶏糞や牛糞等を入れ、自分で調整している。</p> <p>今後は、農家の方々とタイアップして比率等色々研究していきたい。</p>

恵良 副会長	堆肥の在庫をどこかで分かるようにならないか。
宮崎会長	ホームページで在庫状況を載せることを検討していく。
中西委員	南流山1丁目自治会は、高齢者が多いので森のまちエコセンターまでは遠くて堆肥を貰いに行けない。 定期的に運んでくれば利用する方もいると思う。
近藤委員	堆肥は使わず生ごみ処理機を購入した。そのままでは、肥料として使えないので庭で乾燥させていたが犬や猫が来て食べられてしまうので今は捨てている。
紅谷委員	堆肥を運ぶという話があったが、ただ持って行くのでは必ずしも堆肥がはけるわけではない。逆にCO <sub>2</sub> が増えてしまう。 堆肥の設置場所の問題等、色々考えてどれが効果的かを研究する必要がある。
恵会長	すべて行政が行うと大変な金額になってしまう。堆肥のやり取り仕組みをネットワーク化すると、タイミングよく情報交換でき、困った事等の情報もうまく共有できる。
大橋委員	市民とクリーンセンターの皆さんとの理解は深まっているとは思いますが他で何かトラブル等もなく順調か。
岡田次長	本日から22年度の定期点検を実施し、概ね3週間炉を停止する。年末から年始にかけてごみ量が増えていたので3炉運転をおこなってピットの状況を空にしていたので炉の方も異常等はなかった。廃ガス等の確認状況も良好に基準値を保っている。
大谷委員	毎回、講座の前に職員の方が、ごみの減量の話や現状を話してくれる。 また、その話から講座中にもごみの話題になることもあり、広報等では伝えきれない話しをすることもでき、例えば、生ごみの水切りが何故必要かについて話すとか次の講座に来た時に生ごみの水切りをするようになったと話してくれたり、ごみの分別について見直してくれたりしている様子うかがえる方もいます。 理由が分かると行動にも移しやすくなるものです。 子供達の講座でも新しい布を買ってくるのではなく、着られなくなった洋服やいらなくなった布をリサイクルしてマイバッグや小物を作ったりしているのを他の物に変わることを通して、繰り返し使えること等を伝える事ができる。 毎回の地道な努力が必要ですが、講座を通じて些細な事でも情報を伝える事で、少しずつでもごみについて考えてもらえるようになると良いです。
恵会長	リサイクル講座が他の情報も併せて皆さんから提示されるという事のメリットが大きい。引き続きアピールの場として、色々な事と組み合わせ情報提示できたらいい。
(3) その他について	
恵会長	次に、議題(3)「その他について」についてなにかあるか。

近藤委員	<p>ペットボトルのキャップだが、家が柏市に隣接している為、柏市の方に持って行ってもいいのか。やはり、流山市の方に持って行った方がいいか。</p>
宮崎課長	<p>鈴木委員がペットボトルキャップ回収の責任者ということで、回収してくれている。</p> <p>各設置場所に取りに行きペットボトルキャップを集めて、流山の養護学校にお金を出して選別してもらっているので、流山に出していただいた方がいいです。</p> <p>また、ペットボトルキャップの回収について、広報に掲載するなど、市も側面からの協力をしている。</p>
新美委員	<p>ごみ減量推進員の会議に自由参加で、我々委員も参加させてほしい。日時を連絡してもらって参加できる方は参加すると、現場の様子が分かるのではないか。</p> <p>それから、廃棄物に関心のある方が集まるので是非、フリーディスカッションで色々情報交換できるといい。</p>
宮崎課長	<p>ごみ減量推進員会議は、初めて推進員になった方が多く、役目、活動内容、活動計画書の作り方など基本的な事項についての説明の場であり、ごみの議論はあまりない。</p>
恵会長	<p>フリーディスカッションの件はどこかで時間をとってやる。例えば、審議会は審議してその後時間が残ったらという感じである。</p> <p>その他になにかあるか。</p>
宮崎課長	<p>次回の予定ですが、5月頃で考えている。日程が決まり次第早めにお知らせする。</p>
恵会長	<p>次回の開催は5月頃という事で、本日の議事はこれで終了とする。</p>